



ここはオアシス

嘉藤 継世さん (秋田広面店)

毎日のようにセントラルフィットネスクラブ秋田広面店を利用して。埼玉県から引越して以来、二十年以上もお世話になって

いる私に、昨年、プラチナ会員になりましたよ、とご褒美としてクラブから二万円の商品券を頂戴した。長く続ければこんな素敵な事もあるものだ。と大喜びし、早速、クラブ内のプロショップで水着やスポーツウエアを購入して仲間から羨ましがられた。

今まで複数のスポーツジムを利用して来た。だから気付く事がある。このセントラル(仲間内ではみんなただ『セントラル』と言いつても正式名称では呼ばない)は他の施設と違った魅力を持っていると思う。まあ、ちょっとキザな言い方だけれど『あたたかさ』かな。

厳寒期の秋田の冬と言えば、頭上に重くのし掛かる分厚い雪雲と日本海から吹き付ける強風に代表されるように、鉛色の雲の遙か上

空に存在する太陽を拝む事は難しい。真つす
 ぐ前を見られないような吹雪の日でも背中を
 丸め、健康寿命を伸ばすぞ、と意気込んで徒
 歩でセントラルに通う。やっと思り着いたそ
 の玄関の自動ドアが静かに開くと、ほっとす
 る心地良い春みたいな快適空間がお出迎えし
 てくれる。暖房の効いた館内のお陰で、寒さ
 で縮こまっていた身体の部位の一つ一つが冷
 凍状態から生身に戻って行くようだ。フロン
 トのスタッフから明るい元気な声を掛けられ
 たちまち笑顔になる。これが一つ目の心身に
 染み入る『暖かさ』。
 そしてこのセントラル、なくてはならない
 と感じるのが休憩時間。運動も大切だが、人
 によつてはそれと同じくらい大事な時間だと
 思う。お昼頃になると気の合う仲間たち同士
 が二階のラウンジで軽食を摂る。私が昼食を
 済ませて入館する頃、ちようど仲間たちのも
 ぐもぐタイム。時々「ちよつと、ちよつと」
 と呼ばれる。そういう時は高い確率で美味し

いものを頂戴出来る。自家製の漬物、山菜、旅行のお土産など。世間話に花を咲かせ、笑いが絶えない時間だ。名前を知らない方とも挨拶を交わし、会話もする。ここで出会って親しくなったグループは東日本大震災後の復興支援ツアーに行ったものだ。相手を不快にさせない術を会得しているのだろう、会話に嫌味がない。ほんわかした話題で盛り上がる。深刻な話は別な場所。ある時、一人暮らしの仲間が「家でテンション下げているも仕方がないから元気を貰いにセントラルに来た。と吐露した。周囲の仲間から「よく来たね。」とその人の気持ちに添って応援がある。これが二つ目の『温かさ』かな。

ところで秋田県は日本一、いや世界一の少子高齢化の道を目下驀進中。当然、都会の施設と比べて高齢者率が高い。だから高齢者ならではのトラブルが時折生じる。他人の靴を履き違えて帰宅する。持参したスポーツウエア、洗面道具を何度も忘れる。ロッカーのカ

した途端、「あ！」と気が付き、大慌てで忘
 れ物を取りに戻ったと言う。その忘れ物とは
 最愛のお孫さん。その日は頼まれて大切な孫
 をスイミングスクールから連れ戻る事になっ
 ていたそうだ。何事もなかったが、心臓が止
 まりそうになったはず。大爆笑である。例え
 失敗があつたとしても「大丈夫、明日は我が
 身。みんな同じ。」と言いのけるおおらかさ。
 「あら、そんな事あつたかな。」と間違いを
 包み込んでくれる優しさ。三つ目は『あたた
 かさ』ならぬ『あつたかな』。
 そしていつもお世話になつていゝスタッフ
 からは「おはようございます」「こんにちは」
 「お疲れ様です」などと笑顔で毎度声を掛け
 てもらい、感謝。赤ちゃんから87歳の後期高
 齢者（私の知つてゐる限り）まで、この施設
 で一緒に和気藹々と過ごさせてもらつてゐる。
 大袈裟ではなく、セントラルは私たちの「心
 身のオアシス」。これからも家族共々宜しく
 お願いしますね。